令和７年度第２回岐阜県図書館協議会議事要旨

１　開催日時　令和８年２月２６日（木）　午後１時 30 分から 15 時 30 分
２　開催場所　岐阜市宇佐４丁目２－１
　　岐阜県図書館　２階　特別会議室
３　会議日程
・館長挨拶
・委員長挨拶
・議題
○協議事項
（１）　令和７年度図書館評価の中間報告について
（２）　令和８年度アクションプラン（案）について
４　委員の現在数　　10 名
５　出席委員の人数及び氏名　　９名

委員長	増田　泰志
副委員長	伊東　直登
委　員	天野　知子
委　員	大倉　　翼
委　員	大成　朋広
委　員	髙木　　誠
委　員	長谷川　千穂
委　員	山田　宏子
委　員	山田　安彦

事務局出席者
富田館長、國島総務課長、石井企画課長、和田サービス課長、近藤サービス課主幹平下管理調整係長、寺井企画振興係長、張山資料係長、綛井調査相談係長、加藤郷土・地図情報係長
県教育委員会出席者
高校教育課　栗本指導主事
環境文化スポーツ部出席者
文化伝承課　市岡課長、鈴木主査
６　議事の経過及び結果
［午後１時 30 分、和田課長の司会進行により、協議会の開会に先立ち館長から挨拶を行った］
［富田館長　挨拶要旨］

本日はご多用のところご出席いただき感謝申し上げる。8月の第1回協議会を開催した時期に「『県民文化の森』夏のわくわくプロジェクト」と銘打ち、水遊び場やキッチンカーによる販売、スタンプラリーや各種催し物、楽書交流サロンでモーニングサービスの提供等を実施した。おかげでたくさんの人に来館いただき、閲覧室入室者数は昨年度比で1割以上増加した。

今後も人が集まり、交流する場を創り出すことにより、図書館の利用促進に繋げていきたい。そのための新たな取組みの一つとして、「岐阜県が誇る喫茶店のモーニング文化」を発信するため、館内でモーニングサービスを提供し、図書館の賑わいの創出に貢献するカフェの運営者を公募した。年末から年始にかけて広く公募し、応募のあった 4つの事業者の中から最も優秀な企画を提案した事業者を、外部委員の皆様に選定していただいた。この事業者からは、図書館を訪問したくなる仕組みを備えたカフェ運営を行うとの提案があった。例えば図書館の貸出カードを持っている人への割引や、図書館を利用する学生を応援する仕組み、飲食物のテイクアウトなど様々なアイデアが出された。4月の営業開始に向け準備を進めてもらっている。

当館は県立図書館としての役割を果たした上で、近隣の県民にとっては、一番近くにある図書館であり、目的もなく立ち寄ることができる最も身近な公共施設という側面もある。図書館に行って本を読む、本を借りるという目的以外の方が図書館に訪れて、ふらっと閲覧室に入り本を読む、あるいは本を借りて帰るということもあっていい。そうした好循環を生み出す仕組みを考えていきたい。

本日は、「令和7年度図書館評価の中間報告」と「令和8年度アクションプラン」について、ご協議いただく。皆様から忌憚のないご意見をいただきたい。

［事務局から、本日の出席者について委員10名中9名が出席しており定足数に達している旨を報告］

［事務局から、委員長が当協議会の議長になることを説明し、委員長が議長進行を務めた］

［委員長は、「協議事項（1）令和7年度図書館評価中間報告について」事務局から説明を求めた］

［事務局（石井課長）から、「協議事項（1）令和7年度図書館評価の中間報告について」説明］

［委員長は、「協議事項（1）令和7年度図書館評価の中間報告について」委員の発言を求めた］

（髙木委員）
　まず、アクションプランに着実に取り組んでいただいていることに敬意を表する。資料11～12ページに記載されている「世界に開かれた交流の場の創出」について、「海外情報、海外教育コーナー資料貸出冊数」の指標はあるが、項目③「海外との交流事業の充実」、④「外国人県民向け資料の充実による多文化共生の推進」の取組みを行った事実は確かにわかるものの、参加者数が不明になっているため、効果等を検証しづらい。展示の入場者の把握は困難と思われるが、検証できるような数値などがあるとよい。海外の雑誌や新聞などの利用については、極端なことを言えば、それを設置しているスペースに入ってこられた方とか、あるいはそこに立ち止まった方だけでもカウントするなど、何か数字で見えるものがあるといい。母国から遠く離れて暮らしている方がホッとできる場として岐阜県図書館が認知されるようになるということはとても価値がある。 3つの柱の 1つとして掲げる「世界に開かれた交流の場の創出」について、もう少し強化、充実をしていただければありがたい。

（和田課長）
　来場者数を把握するのは難しいが、いただいたご意見を元にできることを検討したい。

（天野委員）
　バリアフリーのコーナーにある資料や道具について、障がいのある人もない人も「知る」ことが大切。自分の周りに障がいのある人がいた時に、「こんなコーナーがあるよ」と紹介できるようにしたい。障害がない人たちにも、どうしてこのような資料や道具があって、どのように使うことができるのかを発信していくと、バリアフリーコーナーがもっと生きていくのではないかと思う。

（和田課長）
　バリアフリーコーナーのキャラクター「エプレ」を作るなど、全ての方に関心をもっていただけるような方策を検討する。

（大倉委員）
　以前母親と一緒に来館した時に、1点気づいたことがある。閲覧室の児童コーナーにある多目的トイレについて、女性用トイレには子ども用の便器があったが、男性用トイレには無かった。お母さんと子どもが一緒にトイレを利用する前提でトイレが作られている（お父さんと子どもは一緒に利用できない)。「利便性向上のための環境整備、施設改修」として改善をご検討いただきたい。

（國島課長）

来年度児童コーナーの改修を予定しているので、参考にさせていただく。性別を問わず、お子さんにも使いやすい環境になるように検討する。

（大成委員）

資料冒頭の総括において、レファレンスサービスの受付全件数が前年度比で 110 パーセントと増加したとのこと。インターネットで自分で簡単に調べられる時代になってきていると思うが、なぜ増えたのか、どのような質問が寄せられているのか、レファレンス増加に伴い業務も増えると思うが、職員の業務量が増えたのかお聞きしたい。

（和田課長）

レファレンスの件数について、先ほど説明したとおりフロアワークの際にお尋ねがあればそれを計上したり、同じ人から一度に何件もご質問をいただくことがあっても昨年度までは 1 件とカウントしていたが、内容が全く異なれば 1 件ずつカウントするようにしたこともあり、職員の業務量についてはそれほど変化はしていない。

質問内容については、フロアだと「こういう本はどこにありますか？」と聞かれて、その場でご案内することもあれば、カウンターまで質問者をご案内して、詳細なレファレンスにつなげていくこともある。様々な分野のご質問をいただいている。

（山田宏委員）

資料の 15 ページの「紺野美沙子名誉館長による図書館の読書推進活動」について、イベントで紺野美沙子さんにお会いできるのもうれしいことだが、イベントの中で必ず岐阜県のことに触れてくださるような展開になっており、その際は会場がとても温かい雰囲気になる。岐阜県のよいところをとりあげて、ほめてくださることが多いので、県民として「いい県なんだな。」と改めて実感できる内容になっている。定員の都合があるが本当はもっとたくさんの人が参加したいだろうと思う。

前回、第 1 回の協議会で、ガス灯通りの草が茂っていることについて発言したが、その後きれいにしてくださった。県図書館は県民の財産であり、その図書館を大事に扱ってくださるという感じがして有難いと思った。

「県内市町図書館等への支援」の中の、資料 22 ページに掲載されている出前講座についてお尋ねしたい。県立高校の図書室は司書がいるが、市町村の小中学校の図書室には司書がいなくて、会計年度任用職員で図書整理員の方が午前 9 時くらいから午後 2 時か 3 時まで勤務されている。その方が子どもたちの身近にある図書室の整理や運営の大部分を担っている。教員ももちろん関わっているが、サポート的な役割となっている。市町村の会計年度任用職員は必ずしも司書の資格を持った方ではないので、選書やレイアウト、除籍などわからないことも多く、とても情報に飢えている。岐阜市、飛騨市、高山市には出前講座で職員を派遣しているようだが、要望のある市町村に出かけているという形の支援な

のか。また、情報提供など「こんな支援ができる」といった情報を市町村にどのように発信しているのか教えてほしい。

（石井課長）

小中学校の職員の方にも受講していただけるように、司書等研修会などの案内はしているが、勤務時間が限られていたり、情報が行き届かないなど参加はあまり多くない。出前講座については、例えば小中学校の方を対象とした研修会を主催する市町図書館等からの要望を受けて講師派遣をしている。また市町図書館等職員に、研修会や出前講座を受講していただき、得たことを地域の学校へ還元していただくなど、主には市町図書館等を通しての支援となっている。

10 月に岐阜市立中央図書館の依頼を受けて市内の学校図書館担当者・学校司書を対象とした司書業務研修会で出前講座を行った際には、資料の整理方法等、現場の状況に即した内容だったととても好評をいただいた。出前講座を是非ご利用いただきたい。

紺野美沙子名誉館長のイベントについて、担当としてはふるさと岐阜を知り、地元に誇りを持てる内容にしたいと考えて構成している。2 月 7 日に開催したトークイベントには大野町出身の俳優・モデルである菊池亜希子さんをお招きして地元のこと、またご自身の子どもの頃に親しんだ読書や図書館のことにも触れていただいた。

（伊東委員）

学校図書館司書の問題は全国的にとても深刻であり、正規の司書が配属されている小学校は数えるほどだ。学校司書がいない学校もある。

会計年度任用職員には研修会参加のための旅費が出ないとか、休みが取れないなど、参加しにくい状況がある。図書館の問題というよりは、教育委員会、教育行政の問題であり、協議会においてこのような声があがっているということを、教育委員会にあげていただけたらと思う。

その他 2 点について意見を述べる。1 つ目はいつも多くの事業をよくやっていると感心する。岐阜県図書館の宝の 1 つとしての地図資料の活用推進について、以前意見を述べたが、様々な地図紹介の事業を実施していることが資料からわかる。さらに地図の活用を進めるとよい。企画展示の入場者数は掲載されているが、関連事業の内容や反応など、実施してみてどうだったか伺いたい。

2 点目、資料 12 ページにある、「各分野の専門家蔵書評価の計画的な実施と資料収集、除籍への反映」の取組みについて、専門家に蔵書評価をお願いすることはとても難しいのではないかと思われる。R6 年度は「芸術」という切り口で実施したということだが、「芸術」と言っても様々な分野があり、誰に評価をお願いするのか、薦められた資料は必ず収集しなければいけないのか、図書館としての選書の判断は、といった問題が出てこないか心配である。おそらく市町図書館でも同様の取組みは難しいと思われる。評価者の人選

や、蔵書評価の取組みについて図書館として悩みがあればお聞きしたい。

（和田課長）
　所蔵地図紹介については参加者数の集計ができない場所で実施している。感覚的な印象だが、展示「江戸切絵図の世界―時代小説の舞台―Ⅴ」は図書館で所蔵している時代小説の世界を地図で見ていただくシリーズで、展示についておたずねをいただくことがあるので、楽しみにしていただいているようだ。

（石井課長）
　蔵書評価の人選について確かに毎回苦慮している。今年度は「航空宇宙産業」ということで岐阜大学の工学部の先生に知り合いがいてお願いすることができた。昨年度「芸術」については音楽分野は県立高校の音楽の教員、演劇分野は、「大人のためのブックトーク」の講師である小林昌廣氏（元情報科学芸術大学院大学教授）、令和５年度は「法律」分野であったため、岐阜県弁護士会の弁護士にお願いした。
　評価を参考にして、収集方針にそって、関連資料を補充したり、排架の調整を行うなどしている。

（富田館長）
　市町小中学校図書館の司書の問題について、一度、県教育委員会の義務教育担当課と、県教育事務所のルートから議論させていただきたい。

（増田委員長）
　県立高校も学校規模によって正規の司書が配置されていない現状がある。

（天野委員）
　学校司書の研修受講については、確かに出張として扱えない、休みも取れない、交通費も支給されないという問題がある。
　学校司書と話をするときに、〝スキルアップのためには、いろいろなところに出かけて行くことは大事〟〝様々な知識は無駄にはならない〟と伝えている。各方面から学校司書にも情報を流してもらえるようにしてほしい。岐阜市でも実施しているが、「司書会」があるとよい。各種情報が得られ、各学校同士の情報交換もできる。岐阜市ではメディアコスモスの中に学校連携に関する部署があるようだ。学校図書館の運営等について質問できる窓口が県図書館にもあるとよい。

（伊東委員）
　要望に応じて出前講座を実施するとのことだが、そもそも要望は、自分たちの仕事にお

いて疑問や課題があり、それを何とかしようという意識があるから出てくるもの。ルーティーン化して疑問も感じないということもある。それを変えていくためには、最初は一方的でも、情報を出せるところから出していくことが大切。そこから疑問点など気付きが生まれる。それができる体制づくりをお願いしたい。

（長谷川委員）

資料 14 ページに記載の取組み「オンラインサービスの推進」について岐阜市立図書館との連携で「電子図書館まつり」を実施されており、大変すばらしい。電子書籍を 8356 点収集、アクセス数も増えたということでとてもうらやましい。電子書籍の利用者の年齢層などは分析しているのか。県図書館の場合、主に学術書・専門書や高校生に利用してもらえる資料を中心に収集していると思うが、実際に高校生の利用が増えているか、あるいは他の層の利用が増えているのか、コンテンツへの要望とかリクエストはあるか。もしあれば、それを購入することはあるのかお聞きしたい。

（石井課長）

電子書籍についてはコンテンツ数が増えるとそれだけ利用が伸びていくという結果が出ている。県図書館としては課題解決支援に関するものを中心に収集している。どのような人がアクセスしているかはシステム上では把握できない。

高校生については、県内の学校単位で一括で利用者登録できるしくみを整えている。登録者数は学校によって差があるため引き続き全校に PR をしていきたい。個別のリクエストは特にないが、もう少し柔らかい内容の本があるとよいという声は聞く。利用者アンケートでニーズを把握するという方法もあり、要望があれば選書の参考にする。

（山田安委員）

小中学校の司書の問題に関しては、私も岐阜県のＰＴＡ連合会総務委員長の立場であり、学校対象のアンケートで学校図書館のこともテーマにあげるなどして意見をまとめ、県教育委員会に要望を出していきたい。

資料 7 ページの「学校教育への支援」について、関連事業として「わくわく地図教室」「児童生徒地図作品展」が記載されている。展示見学者が他の事業に比べて 2020 名と多く、非常に関心を持たれているのだと思う。第 31 回開催ということで、少子化の流れがある中で見学者数は横這い若しくは下がる傾向にあるのではないかと想像するが、30 年前、10 年前と比べてどうなっているか。小学校１，２年生や３，４年生を対象にした「わくわく地図教室」は、非常に良い取り組みだが、参加者が 47 人というのは寂しい。「郷土を知り学ぶ機会」としても非常に大切な事業なので、継続していただきたい。

前回の協議会後、館内を見学した。皆さん読書したり勉強したりする中で、知り合いを見つけた。彼はテレワークが主体の企業家で、「どうしてここで仕事をしているのですか、

何か用事があったのですか。」と聞いたら「ここがいいんです。」と言われた。地元の知り合いに会うのも嫌なのかと思うが、私も彼も岐阜市外在住で、地元にも県図書館に来る途中にも市町図書館はあるが、県図書館がよくて、ここを選ばれたのだと思った。

（富田館長）
　県図書館はその方にとって大変魅力があり、惹き付けられる何かがあるというお話をいただき感謝申し上げる。

［委員長は、「協議事項（２）令和８年度アクションプラン（案）について」事務局の説明を求めた］

［事務局（石井課長）から、「協議事項（２）令和８年度アクションプラン（案）について」説明］

［委員長は、「協議事項（２）令和８年度アクションプラン（案）について」委員の発言を求めた］

（伊東委員）
　健康医療情報サービスについて、他県に比べて目立った取組みをしており、この特徴をもっと発信して他県をけん引するくらいになってほしい。
　アクションプランの３ページ「ビジネスライブラリアンの育成」について、ビジネス支援図書館推進協議会主催の講習会についての記載がある。来年度は、松本市で開催されるので、ぜひ岐阜県内から幅広く参加してもらいたい。
　８ページに新規の取組みとして「交流の場の創出」が記載されているが、「図書館は静かに本を読むところ」という従来のイメージからなんとか脱却したいということで、全国で取り組みの動きがある。図書館の新しい使い方として、是非進めていただきたいと思う。
　全国的な動きとして、図書館の深い使い方、リテラシーという観点でも追究していただきたい。インターネットで非常に表面的な情報を見て、理解した気になってしまいがちだが、図書館に来ると専門的な深い情報にきちんと繋がるということ、情報リテラシーが大切だということを広報して、その実績も上げなければいけない。先ほどレファレンス受付件数が少し増えたという話があったが、県民の利用率というレベルではまだ、図書館のレファレンス機能を知らない人すらいるという現状があり、これを打開していかなくてはならない。図書館の深い使い方というのを両輪で進めていただきたい。

（山田宏委員）
　８ページの「賑わいの場の創出」について、岐阜市立の図書館ががやがやしているの

は、〝子どもがここでしゃべってもいい〟と図書館が表明していることによる。今回県図書館は「周りを気にせず読書に親しむ場」と記載しているが、「程よい賑わいの場」として、マスキングサウンドを導入してある程度の音声を許容する環境にしていくということか。県図書館はとても静かなイメージがあるので、勉強や調べものをしている人もいるし、本を探している人もいる。児童コーナーでは「程よい賑わい」というイメージなのか、全体が「程よい賑わい」となるイメージなのか教えてほしい。

（石井課長）
児童コーナーを中心として閲覧室入口から第一カウンターにかけてを「程よい賑わい」のエリアとし、静かに過ごしたい人は、奥のスペースを利用してもらうといったように、スペースをエリア分けするイメージである。

（大成委員）
7ページの「環境整備」について、LED工事等のため令和9年に2か月閉館する間に実施するサービスを検討するとのことだが、具体的にはどのように計画されているか。また、8ページにある「オーディオブックサービス」とはどのようなサービスか。

（石井課長）
2か月の長期閉館になるので、その期間にもできるサービスということで、電子書籍などのオンラインサービス、障がい者サービス（郵送貸出等音訳資料の提供）などを継続して行っていきたいと考えている。その他、長期閉館中に図書総点検も予定しており、一時期一部の所蔵資料については相互貸借に制限が発生するかもしれないが、定期配送便等による、県内市町図書館等同士、県内市町図書館等と県外との相互貸借のハブ機能は継続していきたい。その他、現在アイデア出しをしているところであり、皆さんにできる限りご不便ご迷惑をおかけしないように検討したい。
オーディオブックサービスについては、今年3月末には配信が開始できるように準備を進めている。文学名作作品を中心に少しずつコンテンツ数を増やしていけたらと思う。

（天野委員）
8ページの「情報発信と情報サービスの強化」について名誉館長によるイベントに毎回参加させていただいているが、大変盛況であり私の周りにも落選した方が結構いる。会場で直接鑑賞できるのが一番だが、別の会場でモニター鑑賞することはできないかという声もある。
また、QRコードでアンケート回答ができるしくみについては、後でゆっくり回答できて良かったという声があった。

（石井課長）
　毎回たくさんのご応募をいただいており、今回も半分以上の人が落選してしまったので申し訳なく思う。別の会場のモニター画面での鑑賞については、以前は実施していたこともあったが、映像の質の問題があり出演者側のご意向もあって会場で鑑賞していただくのみとしている。ＨＰに掲載するイベント報告をご覧いただいたり、アウトリーチ事業として県図書館以外の地域で開催することもあるので、そちらにも参加していただければと思う。

（山田安委員）
　８ページにある「オーディオブックサービス」はすごくいい取組みだと思う。ウォーキングやフィットネスの際には本を読むことができないので、オーディオブックはすごくありがたい。活字離れが進んでいる若者でも耳から入ってくるのであれば、利用しやすいと思うので展開していってほしい。音楽配信サービスも図書館で行っているのか。

（石井課長）
　ナクソス・ミュージックライブラリーという音楽配信サービスを行っている。クラシックが中心で、電子書籍ほどではないが、よく利用してくださる方もいる。こちらはパソコンのみで利用できるサービス（スマートフォン利用不可）のため利用があまり伸びていないが、利用が増えるように引き続きＰＲしたい。

（髙木委員）
　６ページの、「外国人の県民の方」へのサービスについて、感覚的でよいが利用者は増えているのか。自分が外国に行ったら公共図書館を利用するのは非常に敷居が高いと感じる。
　もう１点、令和９年に２か月閉館ということだが、４月から館内で営業を開始するカフェは、この２か月の閉館中はどうするのか。サポートはどう考えているのか。

（和田課長）
　まず外国人の方の利用について感覚的にはそれほど多くなく、アジア系、欧米系の方が半々くらいである。１日に数人来館される。外国語の資料も所蔵しているが、外国籍の方が借りられるだけでなく、日本人の方も借りられており、一概に全て外国籍の方が利用されているというわけではないので、外国籍の方の資料のご利用状況は、明確には把握していない。

（國島課長）
　閉館期間中のカフェの営業について、２か月という長期閉館であり、かなり影響がある

と思われるが、必ずしも店舗自体を閉めなくてはいけないということではない。どういった形でカフェの営業を続けるのか、あるいはカフェは閉めて、弁当だけのテイクアウトサービスをすることも想定できるので、カフェ事業者と相談をしていきたいと考えている。

（大倉委員）
　中高生は県図書館にどのような交通手段で来ているのかが疑問である。自分は、大学からバスと電車を使い西岐阜駅から歩いて来ている。西岐阜駅からくるくるバスで来るか、岐阜駅から岐阜バスに乗って来ることになると思うが、くるくるバスや岐阜バスの本数がすごく少ない。来館しづらくてもったいないと感じる。利用者が少ないから本数が少ないということもあると思うが、子どもの読書活動の推進という観点で中高生をターゲットにするなら、図書館からの支援として、来館しやすい環境を作ることはとても大事と考える。車が無いと少し不便と感じている。難しい問題であるが、ご検討いただければと思う。

（國島課長）
　バスなど公共交通機関の本数は多くない現状であり、もっとバスの本数があれば、若い方にも多く来館していただけるのかもしれない。バスの本数を増やすことは少し難しいが、西岐阜駅から歩いて 15 分程度で来ていただける立地であり、近くに住んでいる中高生、小学生や小さなお子さんを含めて、ここに来るとカフェもあって過ごしやすく、勉強もできて、友人や親子で１日楽しく過ごすことができるということを今後ＰＲしていきたい。お子様連れなどご家族で乗り合わせ等していただければとも思う。交通機関の整備は難しいが検討していかなければと思う。

［委員長は、図書館運営全般について委員の発言を求めた］

（長谷川委員）
　図書館界全体でも問題になっているが、福岡市総合図書館で人が刺される事件があり、安城市の図書館が入る総合施設で放火事件があるなど私たちも危機的な問題と感じている。
　人が自由に交流できる場所を作れば作るほど、一方で不特定多数を狙った犯罪も起こりやすくなるジレンマもある。県図書館では防犯カメラなどの対策はどのように考えているか。

（國島課長）
　連日ニュースで報道があり、利用者の方も非常に心配していると思っている。警備、職員の増員はすぐには難しい。毎年警察にご協力いただき防犯訓練をしているが、改めて防

犯訓練で習ったこと等を思い出しながら、もしもの時に対応していくことを共通認識としている。カウンターから不審な人物がいないか確認したり、遅番の時は職員も巡回をして警備員とともに目を配るようにしている。防犯カメラや防犯グッズも用意しており、グッズについてはすぐ使用できるよう確認しておくことなど職員間であらためて共有した。

［委員長は、今後の予定について事務局に説明を求めた］

［事務局から、今後の予定について説明。次回の協議会は令和８年７月の開催予定］

［本日の協議事項の審議がすべて終了したことを確認し、午後３時３０分に閉会宣言をした］